

館内・新地エリア

■エリアの概要

館内エリアは、鎖国時代に「唐人屋敷」と呼ばれた中国人居留地が築造された場所であり、当時造成された地形や石垣、水路、お堂などが残存、復元されています。また、館内エリア北部に位置する新地エリアは、鎖国時代に中国に対する貿易品の荷蔵として、当時の海面を埋め立てて築造された場所であり、現在は中華料理店やみやげ物店が軒を並べ、市内有数の観光地となっています。

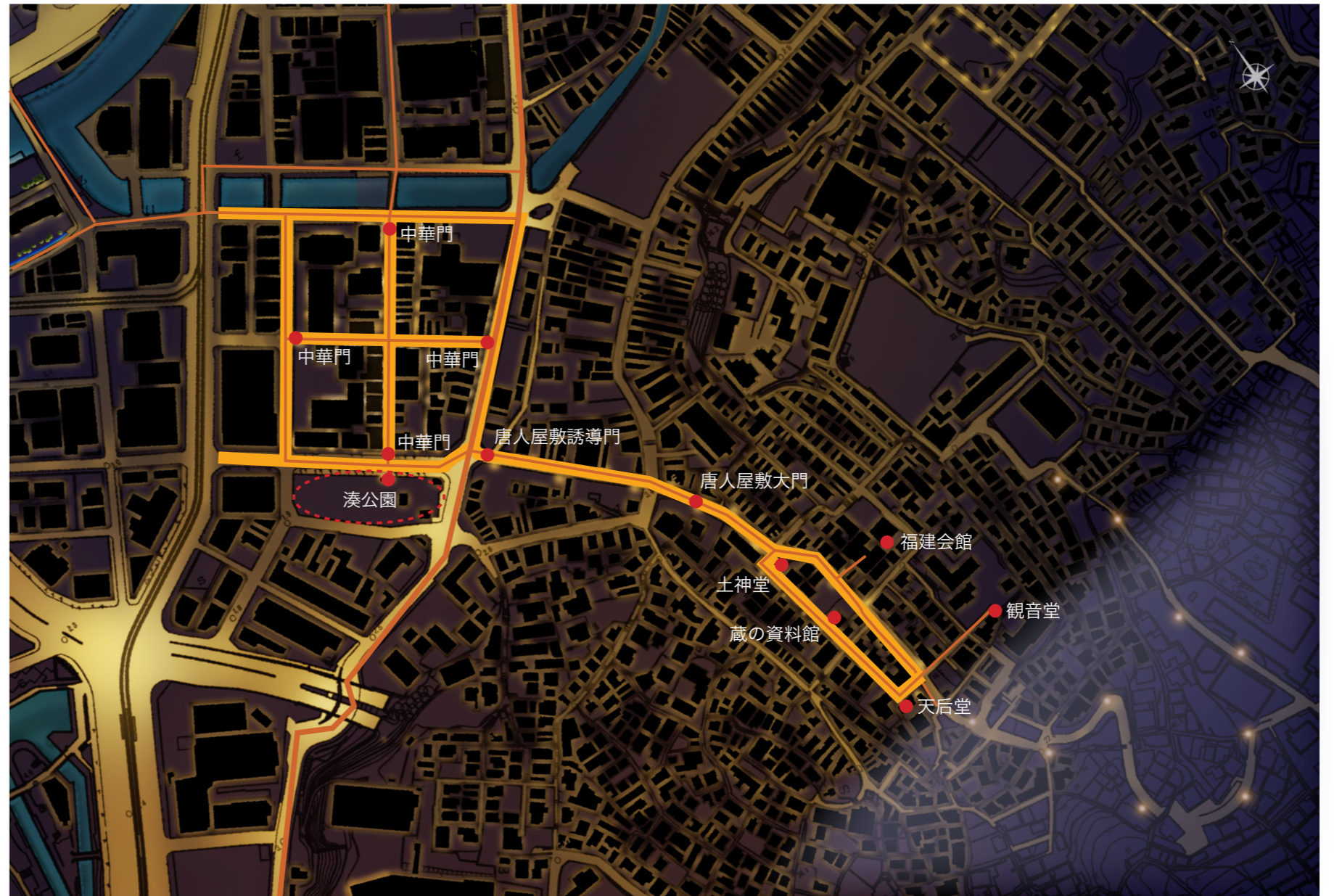
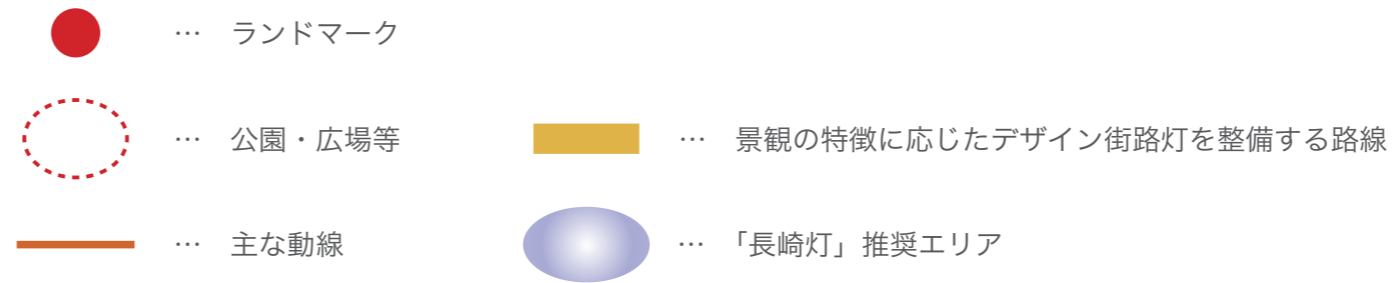


コンセプト：華やかさと暮らしとが共存する光

長崎における「華」の表情を存分に演出すると共に、住宅地における心地よさも両立させ、エリアごとの演出やイベント時におけるオペレーションにも考慮した夜間景観の形成を目指します。

■方針

- ・ 中華門やお堂等のランドマークのライトアップを推進します。
- ・ 意匠が統一された街路灯を連続的に設置することで、地区内を華やかに繋がります。
- ・ 中華街等の人通りの多い場所は、建物からの漏れ光や看板照明により賑やかさを演出します。
- ・ ランタンフェスティバル時には、合わせて効果的なオペレーションを行います。



4. 夜間景観向上のためのガイドライン

4-3. 中・近景の夜間景観づくり

4-3-6. 館内・新地エリア

現状調査

■現状分析と課題（新地中華街～福建通り）

中華街らしい明かりで照らされていて、賑やかさも感じられます。しかし、グレアのある器具が無造作に設置されているケースも見受けられました。また、鮮やかな色彩を演出するには、より演色性の高い器具を使用することが必要です。



①中華街 北側



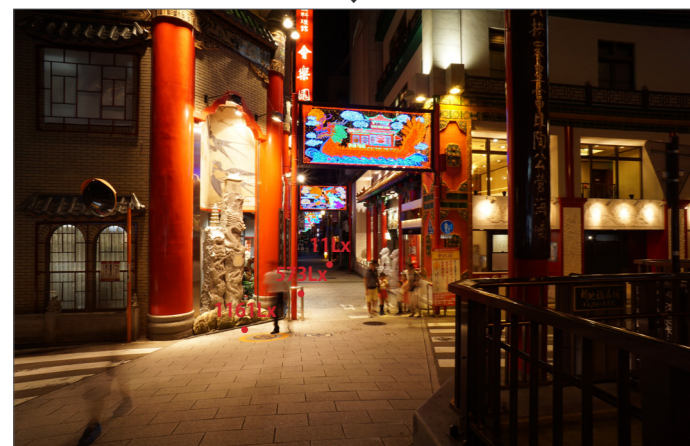
②中華街 南門



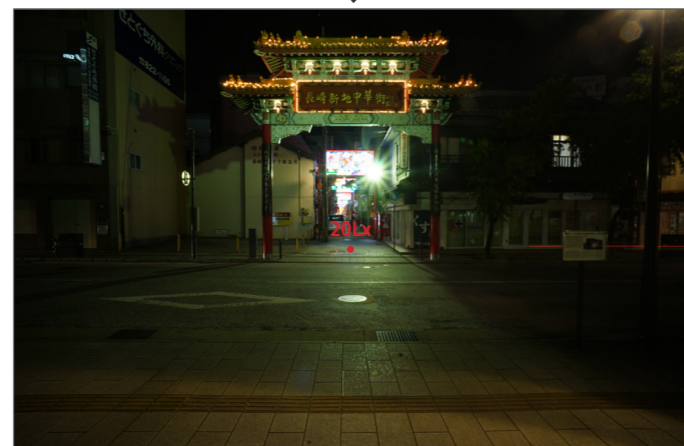
③福建通り



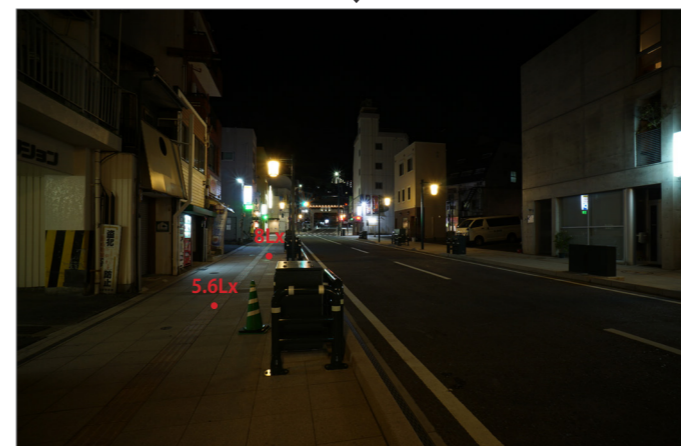
④福建通り 街灯



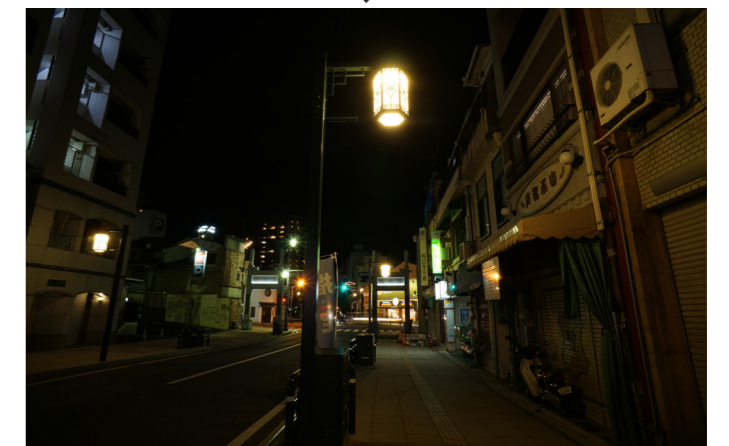
手前の店舗の明るさはあるが、逆に奥の道が暗く感じる。アーチ状の光るモニュメントは街路灯と高さや位置が近く光が干渉していた。



南門を中華街方面からライトアップしている照明器具グレアが強く不快感がある。また光が拡散しているので門が効果的に見えない。



デザインされた街路灯により歩道の明るさは確保されているが、唐人屋敷大門より先が暗いためか誘導性に欠ける。



電線が埋設されているため、街路灯がすっきりと見える。

4. 夜間景観向上のためのガイドライン

4-3. 中・近景の夜間景観づくり

4-3-6. 館内・新地エリア

現状調査

■現状分析と課題（唐人屋敷跡周辺）

新地中華街は毎日多くの観光客で賑わっていますが、唐人屋敷跡周辺は住宅も混在しており、夜には人通りが少なくなります。場所によっては機能的に照度が不足しています。

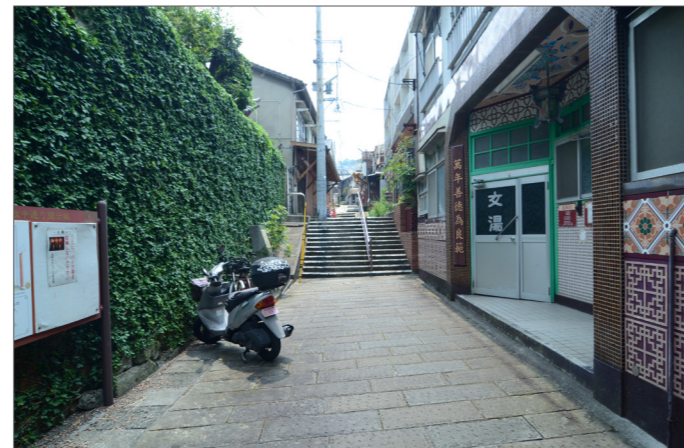
中華街を訪れる人々に対して、唐人屋敷跡方面への散策を促すような心地よい夜間景観づくりができれば、居住する人々にとっても快適な光の環境になります。



- ★ … ランドマーク
- 📍 … 調査写真撮影箇所



⑤唐人屋敷通り



⑥唐人屋敷中通り



⑦蔵の資料館 西側



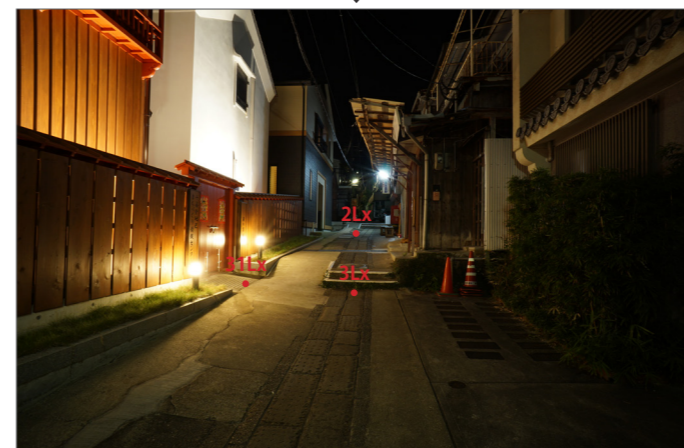
⑧蔵の資料館 東側



ポール灯が眩しく、演色性の低いナトリウムランプがあるだけで唐人屋敷跡の雰囲気を感じない。



路地には街路灯が少なく暗く寂しい印象を受ける。建物からの漏れ光も少なく、暗さを感じる。

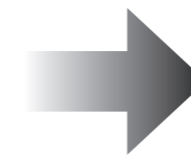


このエリアで唯一、毎日ライトアップされている施設なので眩しく感じるが、他のランドマークもライトアップを行えば馴染むものと思われる。



下からライトアップされており印象的だが、一部漏れ光などが見えるとより安心感を感じる。

	現状調査から見た問題点	
陰影の考え方		・路地に入ると階段など足元の明るさに不安を感じる
色温度		・ナトリウムランプは 2000K、 街路灯の一部は 5000K
鉛直面輝度		・街路灯は点灯しているが鉛直面は暗い
グレア対策		・ライトアップしている照明に眩しさを感じる
演色性の優先度		・ポール灯、ライトアップ用照明の演色性が低く、対象物の色味が悪く感じる
器具		・ポール灯のデザインが統一されていない
オペレーション		・長崎ランタンフェスティバルのメイン会場となっている



夜間景観向上のための基本原則	
・1-20Lx 程度の幅で、安心感を与える照度に設定をする	
・2700-3000K 程度に整える	
・看板照明・建物からの漏れ光を活用し、明るさ感を出す	
・グレアを抑えた防犯灯とする ・ライトアップでグレアにならない器具選定や納まりとする	
・路地は Ra80 以上、 人通りが多い場所は Ra90 以上を基本とする	
・エリアの特性に応じて、ポール灯のデザインを統一する	
・長崎ランタンフェスティバル等の催事に合わせ、現状のように特別な演出を行う	

※ Lx (ルクス) とは：光によって照らされる面の明るさ (面積あたりの光束)
 ※ K (ケルビン) とは：光源の固有の色味を表す単位

※ 輝度とは：人の目に飛び込んでくる明るさ (面積あたりの光度)
 ※ Ra (アールエー) とは：光源による色の見え方の再現性を表す単位

4. 夜間景観向上のためのガイドライン

4-3. 中・近景の夜間景観づくり

4-3-6. 館内・新地エリア

唐人屋敷中通り 整備イメージ



現状

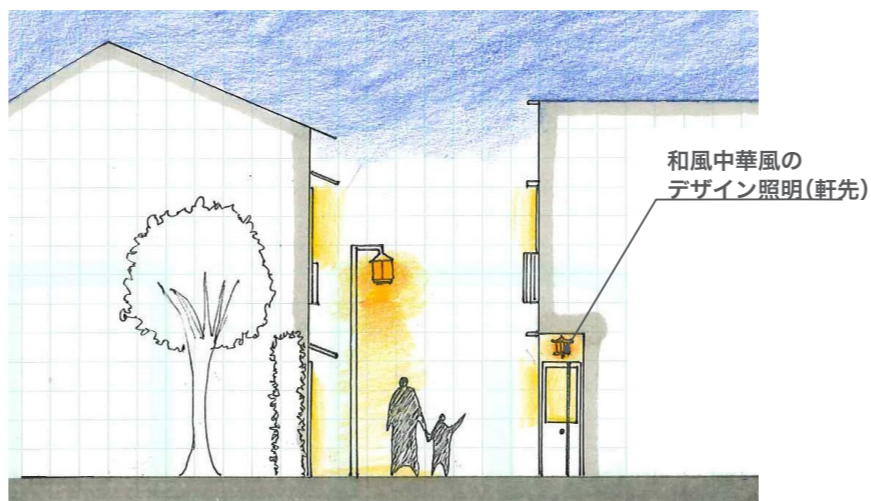


整備イメージ

■整備イメージについて

唐人屋敷エリアの路地空間は、和風中国風の意匠照明の街路灯とし、デザイン灯が配置されている表通りから、エリア全体での統一感を持たせます。

また、通りを明るく演出するため、面する建物からの漏れ光を推奨します。



断面イメージ (S = 1/200)

4. 夜間景観向上のためのガイドライン

4-3. 中・近景の夜間景観づくり

4-3-6. 館内・新地エリア

土神堂前 整備イメージ



現状



整備イメージ

■整備イメージについて

唐人屋敷内にあるそれぞれのお堂は、中華風の鮮やかな色彩を活かしたライトアップを行い、地区のランドマークとして演出します。街路灯はデザインを統一し、新地エリアとの連続性を生み出すとともに、グレアのない目に優しい公共照明を整備します。



山門のライトアップの事例（埼玉）

4. 夜間景観向上のためのガイドライン

4-3. 中・近景の夜間景観づくり

4-3-6. 館内・新地エリア

中華門 整備イメージ



現状



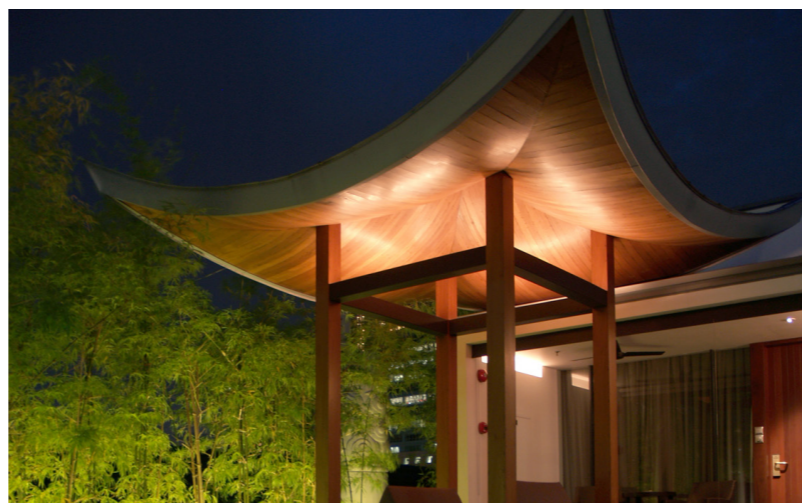
整備イメージ

■整備イメージについて

中華門は、遠方からの投光器によるライトアップが大味な印象であり、かつグレアとなっています。そこで、門の上方に取り付けられているアップライト器具を、適切な配光と演色性のものに変更することで、軒裏の鮮やかな色彩を見せます。

また、「長崎新地中華街」の看板を囲うテープライトは、あえて残して親しみやすさを感じさせます。

柱は埋め込み照明によるアップライトを行います。また、中華街への入口を示す「玄関マット」として、ハイライトのためのダウンライトを設けます。



軒裏のアップライトの事例（シンガポール）